

早大ピアノの会 OB・OG 演奏会 2024

2024 年 11 月 23 日（土・祝）

開場： 12 時 30 分 開演：13 時 00 分～17 時 00 分

場所：渋谷ホール



① 森田亮介(29 代)

美しき音楽-Die schöne Musi-(グルダ)

こんにちは、早大ピアノの会 OB 演奏会主務の森田亮介です。

「よくメールとかで名前を見かけるけどなんなんだこの人は」という方のため
に自己紹介をさせていただきます。

商学部卒業後、一度医療系の団体職員になったのですが、一風変わり者じゃない
と気がすまない性格が災いし、何を間違えたのか司法試験の勉強をしなくなっ
て退職→裁判傍聴に行ったら「…別に裁判官・検事・弁護士のどれにもなりた
いわけじゃないな」と我に帰り、今は早稲田大の近所の電気工事店で事務職員を
しています。学生会館 B201 の照明設備の入れ替えなんかもしてるんですよ。

人生の野望としては、今後 300～500 年ほどかけて労働市を廃止し（ほんとにや
りたいことならば、自ら金を払ってでもそのジョブを買うべきだという思想）、
貨幣租税を廃止（自らが申し出た役務の遂行自体を納税とみなすという思想）し
たいなと思っています。これは財政社会学と貨幣論によって理論的な土台を作
っているつもりなのですが、院に行ってみてまとめたいなと思う一方で、先生がたに
進路相談をしてみるとめっぽうウケが悪く、「ひょっとしてみんな僕より馬鹿な
のかな？」と人類の知性を疑っています。

ただ最近では、自分の考えが学問や理屈として正しいかということよりも、何らか
の方法で人々を感動させて、僕のことを気に入ってくれたならば、僕亡き後も僕
のアイデアを万人が勝手に好意的に解釈して理屈を立ててくれるのでは？など
と思ったりして、そういうわけで普段はリストの宗教曲ばかり弾いている僕が
ウケを狙ってフリードリヒ・グルダ（1930-2000）の曲を選び、耳コピしました。
下書き状態ですが譜面を見たいという方はこちらよりご参照ください。

https://wqswqswqs.sa-kon.net/concert/241123/gulda_beautifulmusic.pdf



グルダなんですが、カプースチンと同じようにクラシックもジャズもできるピアニストというか、ピアノメインのミュージシャンです。クラシックではモーツァルト、ベートーヴェンあたりを得意としていますが、クラシックにもアドリブを入れたり、あまりジャンルで区別せずに音楽という広い括りで捉える方向性のようです。

カプースチンは川上昌裕先生が30年近くかけて熱心に活動されたおかげで日本でも有名になり、愛されているわけですが、グルダはまだ未発掘の状態です。どうやら楽譜はそれなりに出版していたようですがおそらく絶版になって失われているのでしょう。本人も2000年1月…つまり、森喜朗総理大臣がIT革命（イット-かくめい）する前に亡くなっているのです、このWEB3.0の時代に適した紹介者を得られなかったということでフォーカスが当たらなかったのではないのでしょうか。

その上、カプースチンほど綿密ではないので、今楽譜が入手できる曲目もコードしか書かれてないパターンが多いです（まあジャズだもんね）。これらの事情から、一般人が弾こうとすると前奏曲とフーガ、Play Piano Play（エチュード）の数曲くらししかないためについに語り部が途絶えようとしていたのですが、最近では日本国内でもオケがチェロ協奏曲をやったり、来年には角野隼斗（かていん）さんがコンチェルト・フォー・マイセルフ（ピアノコンチェルト）を演奏する予定であるなど！また、2023年にはちくま学芸文庫でグルダのインタビュー録が再出版（改題「俺の人生まるごとスキャンダル」/訳：田辺秀樹）されるなど！じわじわ来ているのです。そういうわけで時機を逃さず僕のオルグ活動に駆り出されることになったわけですね。

「美しき音楽」はピアノとドラムとベースのバンド曲なのですが、ピアノソロの「ゴロウィーンの森の物語（Geschichten aus dem Golowinerwald）」の後半でほとんどそのまま出てくるので、これを耳コピしてパッチワークしました（最近楽譜が出版されているのを先月知りました）。ちなみにゴロウィーンというのはグルダが歌うときにクレジットに載せていた名前（アルベルト・ゴロウィン）とウィーンの掛け言葉です。で、中間部の3回（4度下→4度下→4度下で元調に戻る）の転調が省略されています。「美しき音楽」として抜き出して演奏する場合

にはやはりこの転調部分があったほうが具合が良いように感じます。

僕が演奏会を催すのは 5 回目？になります。演奏会としての体裁を捨てて省エネ重視でやっているのですが、今年は特に会社の決算やら転職やらと被せてしまっていてかなり忙しかった上に、選んだ曲目も譜面を起こすところからだったので、ちょっとアワアワすぎました。日程を選んだのは僕自身なので文句は言えんですが、なんとか当日を迎えられてホッとしています。出演者のみなさま、ご来場のみなさま、ありがとうございます。来年もよろしくお願いします。

② 谷口雄大(29 代)

幻想曲第 3 番「阿蘇観音」op.60(芝祐久)

トッカータ(イウエイゼン)

皆様、ごぶさたしております。

そして、はじめまして。

29 代の谷口です。

しばらく京都に住んでいましたが、縁あって東京に帰ってきました。

どんどんピアノが下手になっていくのを放置して、20 年近く漫然と過ごしてきましたが…

30 代も後半に差し掛かり、「このまま死ぬのはいやだな」という思いから、また少し頑張り始めました。

1 曲目は、芝祐久作曲、幻想曲第 3 番「阿蘇観音」です。

曲名の「阿蘇観音」とは、その山容が観音様の寝姿といわれる阿蘇五岳のことを指すのでしょうか。

千年以上続く宮廷雅楽師の一族に生まれた芝氏は、雅楽の要素が潜在する独特のピアノ曲を多数残しています。

演奏される機会こそほぼありませんが、その魅力を少しでもお伝えできれば幸いです。

2 曲目は、アメリカの作曲家、イウエイゼンのトッカータです。

イウエイゼンは管楽器の曲を多く作曲しており、ピアノ曲は多くありません。本曲はもともとチェンバロのために作曲されたものですが、ピアノで演奏する場合、ダイナミクスの拡がりによってさらに複雑に変化する曲調を表現でき……たらないな～と思っています。

皆様におかれましては、どうぞ慈母観音様のような優しい表情で聴いてやってください。

③ 加納弘基(28代) 幻想即興曲(ショパン)

皆様、お世話になっております。今年も出演させていただきました。去年の演奏会から1年も経ったのにほとんど新しい曲仕上げられてないじゃないか、という現実、これじゃダメだ！と奮起しながら結局また1年経ってしまう怪現象に、あと何度遭遇することでしょう。「出演するだけでも頑張ってる」なんて言ったら、学生時代の自分に軽蔑されるだろうなあ。あの頃当たり前のように出ていた、1日1時間の練習の尊さを強く感じます。

さて、今回取り上げるのは、言わずと知れた幻想即興曲 Op.66 です。周りから何か弾いてと無茶振りされたとき、「昔弾いたんだけどこういう時のためにちゃんとレパートリーにしておけばよかった！」と、その時になってアマチュアピアノ弾きを後悔させる曲ベスト5(当社調べ)にランクインするこの曲、ショパン24歳の頃の作品になります。もともとこの曲は出版される予定のなかった曲なので、ショパンほどの天才にとってはどうということのない曲だったのですが、この曲が喪われていたらピアノ演奏者は非常に苦労していたでしょうね。ちょうどいい長さ、急緩急の王道を往く構成、難しすぎず簡単すぎない難易度、こういうのでいいんだよ、という要素を備えた大変便利な曲となっております。ところで、ショパンはこの曲を作曲した15年後、39歳で生涯を閉じます。彼の年齢に近づくにつれ、どれだけ濃い人生を歩んだんだろう、と感じます。与えられた時間は同じですが、彼が遺した曲のどれか1つにでも値するアウトプットを出せたらどうか、と考えると、改めて頑張らなきゃなあ、と気を引き締めるのであります。そしてまた1年経っちゃうわけです。成長しませんね。

④ 嶋田千恵(23代)
愛のうた(ストロベリー・フラワー)
声(森山直太郎)
フタイロノツバサ(新田のん)

23代 OG の嶋田千恵（旧姓：平片）です。本日はお聴き頂きありがとうございます。

現在は埼玉県内で5歳の娘を育てながら IT 関係の仕事をしています。

P 会にいたのも 20 年くらい前のこととなり、過ぎ去った月日の長さを改めて実感します。

その一方で、OB 演奏会やオンライン飲み会などで交流するたび当時の自分に戻れたような気分になります。

先日は都内で偶然某先輩に数年以上振りにお会いしまして、瞬時に当時の素で話していました（笑）

これからもずっと、P 会は私にとって心の拠り所の 1 つとしてありつづけることでしょう。

今回は少々欲張って（？）ピアノ弾き語りを 3 曲演奏いたします。寛大な心でお聴きいただけますと幸いです。

1：ストロベリー・フラワー「愛のうた」

ピクミンのテーマソングです。娘が最近ピクミン好きなので弾き語ってみることにしました。

私はゲーム好きでもピクミンで遊んだことはなかったのですが、娘の影響でピクミン 4 で遊びました。

1～3 よりも良心的なゲーム設定だったらしく、なんとかラスボスまで倒せました。

葉っぱ仙人の挑戦状は 3 つ目以降はもう難しすぎて放置です（爆）

それはともかく、この歌が本当にピッタリだなあと遊んでいて思いました。

人間っぽい主人公（オリマーなど）の命令を聞いて色々な仕事をし、時には敵に食べられてしまうピクミン。

歌詞はとても健気です。でも、ゲームの解説などによるとピクミンは自分たちが種として繁栄できるように司令塔を見つけ出しては、指示を出してもらって活

動しているらしいのです。

実はピクミン達はしたたかなのかもしれませんがね。私もそんなしたたかな人になりたいです（笑）

2：森山直太朗「声」

大学3年の12月頃の定期演奏会で演奏した曲です。2004年のことで、ちょうど20年前です。

定期演奏会で1回演奏したっきり、その後一度も人前で演奏しないまま月日が流れ現在に至りました。

当時は原曲に近く弾き語ることを目指してかなりストイックに練習していました。

今、聴いてみても（実は Youtube に上げてますw）それがベストテイクに違いありません。

とても良い曲なのに1回やりきって満足してしまったからなのか、ずっとお蔵入りのようになっていました。

今回ふっと思立って、もう1度演奏してみることにしました。

間奏のたった8小節がまだあやしいのですが頑張ります・・・。

そして、20年前の自分に伝えたいです。20年後も私はこの曲を弾き語っているよと。

原曲はギターの伴奏です。ギターは全く弾けませんが、ギターを爪弾くように奏でたいです。

3：新田のん「フタイロノツバサ」

自作曲です。「新田のん」は私の音楽的な活動をする時の名前です。（私の大好きな、いすみ鉄道新田野駅から名前を取りました）

フタイロノツバサとは、いすみ鉄道の国鉄型気動車キハ52125のツートンカラーからつけた曲タイトルです。

漢字で書くと双色だと思うのですが、読みにくいのでカタカナ表記にしちゃいました。空は飛びませんが言葉のあやで翼を付けた次第です（笑）

キハ52125は2019年にクラウドファンディングで車両の塗装がタラコ色1色

（首都圏色）からクリーム色と朱色の2色（一般色）に変更されました。

この出来事を基に、未来へ進む歌として2019年4月頃に作った曲です。P会関連の演奏会で披露するのは初です。

曲を作った少し後に子どもが生まれ、更にコロナ禍に突入してしまい、人前で演奏する機会がほとんどないまま気が付けば5年くらい経ちました・・・。

キハ52125はいすみ鉄道で2011年4月から走ってきましたが、もうそろそろ引退が近いのではとされています。

元々かなり高齢の車両ですから、10数年に渡って走り続けてたのは本当にスゴイことです。最後の最後まで温かく見守りたいです。

なお、いすみ鉄道は10月4日に脱線事故が発生し（幸い怪我人はいませんでした）、

全体的な補修が必要と判断されたために現在も全線で運転を見合わせておりバス代行での輸送が続いています。

来年春の運転再開を目指しているとの報道が先日ありました。

この冬は長い冬になるかもしれませんが、そのぶん素晴らしい春が来ることを心から願い、今は歌に想いを込めたいと思います。

いすみ鉄道は菜の花が有名ですから、バラ色の日々ではなく「菜の花色」の日々なのです！（笑）

余談ですが、いすみ鉄道では駅の信号機を運転士さんがリモコンで青に変えて発車するらしいです。

なので青に「染まる」のではなく「染める」のです。この、意志が込められているっぽい運用が何とというかエモいです。

駅のシグナルを再び青に染める日が1日でも早く来ますように。

【歌詞】

シグナルを青に染めて 僕らは進む輝く未来へ さあ!!

タラコのベールを脱いで

双色(ふたいろ)に染まる姿 ああ 久しぶりだね

新しいようで どこか懐かしくて

夢が走り出した日 あなたは憶えているかな？

小さな駅に咲く菜の花は揺れる 川のせせらぎは静かに語る
ここは故郷の最大公約数 誰もが心温まるオアシス

夷隅の風に乗って 力強く飛べ フタイロノツバサ
白い軌跡を描き 青空と緑と街(さと)を
僕らの瞳に映し続けて

写真のあなたに声かける
遂にこの日が来たよ ねえ、見えているかな
記憶の中の微笑むあなた
今もここに 居てくれるんだね

長い汽笛が響く 空高くまで たちどまった時はもう戻らない
託された願いを それぞれの胸に 前を見つめ歩いていくんだ

僕らは1つのチーム 特に名前はないけど
この鉄路(みち)の上 確かにつながっている
大きな輪になって 広がる 熱い想いが

あなたが映し出す 沢山の笑顔
あなたが再び出会う 昔のあなた
そして これからも
あなたの想いが紡ぐ 物語の続き

夷隅の風に乗って 力強く飛べ フタイロノツバサ
白い軌跡を描き 希望と夢と未来を
僕らの心に映し続けて

シグナルを青に染めて 菜の花色の日々へ
フタイロノツバサ 広げ
飛び立て 僕らが描く未来へ

⑤ 岡安彩香(37代) & 石神綾子(38代)

映画「サウンド・オブ・ミュージック」より「ドレミの歌(Do-Re-Mi)」
(RODGERS RICHARD)

とある女子大のインカレ部員同士であり、お互い北関東出身等となにかと共通点の多い2人です。

大学在学中は、ピアノ連弾したりテーマパーク等に遊びに行ったり、卒業後も彩香さんの結婚式でも連弾を披露したり定期的にご飯に行ったりしています。今回挑戦した曲は、かなりの技術力が要求される難易度の高い作品で、後半になるほどスピードが上がり、担当パートを弾きこなすのも最初は大変でした。あのお馴染みのドレミのメロディーが、お互いのパートに散りばめられているので、飽きることなくお聴きいただける、華やかで楽しい曲となっています。

同大学卒業のあやあやコンビ、頑張ります！

pri.あやかの紹介

某女子大学服飾美術科卒業、岡安（旧姓 松本）彩香です。

幼少期からピアノに夢中でしたが、腱鞘炎で「ピアニストになりたい」夢を諦めました。

ですが、ピアノが大好きなのと、早稲田大学との単位互換制度があったので、このサークルに入会しました。

このサークルに入会して、大学授業で培った洋裁技術を活かして、演奏会に出るたびに個性的?な衣装を作って周囲をざわつかせてました（笑）（演奏会当日まで衣装が着られるか、本当にギリギリなチャレンジをしていました笑）

社会人になり、知人に紹介してもらったジャズピアノに新たな魅力を見つけたのと、実家の農家の野菜を使ったカフェを開くという母親との夢を叶えるべく、結婚後に会社を辞め、調理師の資格を取得し、現在はピアノカフェの開業を目指して夢を追いかけてます。

こうやって大学を卒業しても何度も綾子ちゃんと連弾させてもらって嬉しいです。

足を引っ張らないよう、頑張ります♪

sec.あやこの紹介

はじめまして！38代の石神です。

ふと気が付いたら飽き性の私が20年以上ピアノを続けられていることに驚きと

時の流れの早さを感じてます。

サークル時代はまつこさん(あやかさん)と演奏会で何度も連弾や二台ピアノを演奏したことが良い思い出です！

(2人で初めて連弾した Club IKSPIARI では、まつこさんに衣装を作っていただいたことが嬉しくて今でも忘れられません…！)

今回、また一緒に演奏する機会をいただきありがとうございます！

かなり背伸びして選んだ曲ではありますが、まつこさんと楽しんで演奏させていただきます！！

⑥ 日高裕一郎(36代) ソナチネ(ラヴェル)

お久しぶりの方はお久しぶりです。

大学院で物理学(物性物理)の研究をしていて、去年博士課程を卒業しました。その後量子コンピュータのベンチャー企業に入って、量子コンピュータなどの研究を続けています。ピアノもぼちぼち続けています。

ここ最近で急に寒くなってきたので、きちんと指が回るか心配です。

⑦ 天海才(30代) 伝説第2曲「波を渡るパオラの聖フランチェスコ」(F.リスト)

こんにちは、天海です。本日はありがとうございます。

最近なにしているか、ピアノについてコメントです。

■最近なにしているか

仕事 7 割、それ以外 3 割という感じです。仕事に関してはここ数年はヘルスケア業界で M&A 仲介の仕事(一時期は製薬マーケティング営業も)を中心に従事しており、いまは某企業で M&A 支援事業責任者をしています。責任者と言えば聞こえはいいですが要は何でも屋で、プレイヤーを一部こなしながら採用、育成(新人育成もミドルマネジメント育成も)、マーケティング、拠点開発等やることが多いですが責任と裁量があって楽しく仕事をしています。

それ以外のところとしては、ピアノもそうですし、あとは今日の 2 週間前に行

政書士試験を受験してみたりと自己研鑽のために時間を使うことが多いです。資格も結局は仕事に繋がるので余暇の時間も仕事が第一といえそうかもしれませんが。学生の頃は勉強が嫌いだったのですが、社会人になって学生の頃よりずっと勉強していると感じます。ぼく自身も（世の中の大人の多くと同じように）若いころにもっと勉強しておけばよかったという思いを抱えつつ、学生の頃との差分としては「なぜ勉強するのかという目的が自身の中で明確であること」だと思っています。その点、学生の頃に「なぜ自分が勉強するのか」を明確に持つことは当時の自身には難しかったかもしれません。

■ピアノについて

2年前に家にピアノを持ってきました。が、仕事柄家にいないことも多いのでせいぜい週1～2くらいの練習で、なんなら直近は上記の通り試験があったためあんまり練習出来ておらず2週間前から本腰を入れて練習し始めました。それでも朝起きれないし21時半くらいに帰宅してから「さあピアノ練習するか」という感じで、それもいざ動き出すまでまあまあ時間もかかるので何とも不安を抱えつつ当日を迎えることになりそうです。頑張って弾こう！という気持ちだけはあります。

最後になりますが森田さん、今年も開催いただいてありがとうございます。人との繋がりを維持するにはそれなりに努力が要りますし、ましてや日常を過ごす中でこういったイベントを企画開催されることは本当に本当に大変なことと思っています。

また、今日いらしていただいた皆さまとも、ピアノを通じたご縁が続いていくと嬉しいです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

⑧ 森原百合(24代)

『山曲』より 第4曲「山泉」(崔世光)

◆プロフィール

OB演奏会には、たぶん初めての参加になります。早大ピアノの会の第24代で、学部2年のときに演奏部長（一つ上の代の人数が片手で数えるほどだったため・・・）、3年のときに副幹事長でした。東京六大学ピアノ連盟でオールデュ

オコンサートという企画を立ち上げたり、当時早稲田祭の一環で立ち上げるようになった早大ピアノ阿修羅の企画について、本日同じ部の荒井さんを筆頭に大学側と交渉したりと、学部4年間はピアノのために通学していたなど楽しい記憶ばかりです。現在は、建設コンサルタントとして、環境・エネルギー関係の仕事をしつつ、こだわりのあるピアノ弾きとその仲間たち（早大P会から、先述の荒井さん、本日同じ部の加藤くん、加えて梶田さんらも参加）という社会人ピアノサークルにぼちぼち参加する他、去年は早大ピアノ阿修羅にも久しぶりに参加させて頂きました。

◆曲目について

趣味で中医学の勉強をしている中で、中国の作曲家にも関心が及ぶようになりました。

崔世光は、1948年生まれの作曲家で、西洋音楽と東洋音楽が絶妙に融合した作風が特徴です。この「山泉」は、中国東北部で過ごしていた崔世光が、幼少時に移住旅行で訪れた山東省の印象を基に書かれています。老山という山の滝の近くにある岩に彫られた詩（下記）が、楽譜の中で紹介されています。しっとりとした山の空気、滝のしぶきと煌めき、それらを見て心躍った様を、少しでも表せればと思います。

人游崂山趁天晴，
我等偏择雨天行。
云雾弥漫山色佳，
更比晴日胜十等。

（人々は天気の良いときに老山に旅行しますが、私たちは雨の日に旅行することになりました。山の景色は雲や霧がかかると美しく、晴れた日の10倍も美しいです。） Google lense 訳

⑨ 加藤喜市(27代)

ソナタ形式の組曲 Op.60 より 第1曲「ソナチネ」(ジョセフ・ジョンゲン)

・自己紹介：

早大ピアノの会 27 代 OB の加藤です。早稲田大学第一文学部（哲学専修）卒業後、東京大学大学院人文社会系研究科（倫理学研究室）へと進学し、2019 年に博士号（文学）を取得。現在は、東大文学部で助教をしています。専門は古代ギリシア哲学・倫理学。社会人になってからもピアノを細々と続けており、「こだわりのあるピアノ弾きたちとその仲間たちによる大演奏会」（＋ミニ演奏会）や「早大ピアノ阿修羅秋の楽会」、それからこちらの「OB 演奏会」等で、年に数回は演奏会に出演しています。

・曲目紹介：

今年は、阿布（ア・ブー）という中国人ジャズピアニスト（1999-）の「ピアノ・ソナタ第 1 番」（カプースチン追悼の作品）をいろいろな演奏会で弾いてきたので、そろそろふつうのクラシックも弾きたいと思って選曲しました。ジョゼフ・ジョンゲン（1873-1953）はベルギーのオルガニスト・作曲家で、「ソナタ形式の組曲」は 1918 年の作品です。「ソナチネ」「ファーニュ〔ベルギーの自然区域〕の雪」「メヌエット（踊り）」「ロンド」の 4 曲から成り全体で 30 分弱ですが、（練習期間の問題もあり）今回は 1 曲目の「ソナチネ」だけ取り上げることにしました（そのうち 4 曲目の「ロンド」も弾きたいと考えています）。二短調の哀愁漂う緩やかな第一テーマ、同じく二短調の活発な第二テーマ、どちらも秋から初冬にかけての今の季節に合っているような気がします。拙い演奏ですが、お楽しみいただけますと幸いです。

⑩ 荒井 幸司(21 代)

コラール前奏曲 「最愛のイエス、我ら集いて」 BWV731（バッハ＝コーエン）
「人よ、汝の罪の大きさを嘆け」 BWV622（バッハ＝ナウモフ）

21 代の荒井です。

現在は鉄道関連の会社で鉄道とあまり関係のない地球環境を考える仕事をしています。

ピアノの会の OB イベントには久しぶりの参加となり、皆さんにお会いすることを楽しみに土壇場の練習に取り組んでいます。

今回演奏する曲については以下となります。

どちらも J.S バッハのオルガンコラールのピアノ編曲となります。

1. 最愛のイエス、我ら集いて BWV731 (コーエン編)

とても小さな作品ですが、素朴な美しさに満ちており、幸せな気持ちになれる作品です。

ペダルではなくタイにより音を繋ぐことでハーモニクスを上手く響かせており、ピアノならではの表現に成功した名編曲だと思います。

2. 人よ、汝の大いなる罪を嘆け BWV622 (ナウモフ編)

フランスの作曲家兼ピアニストのエミール・ナウモフによる大変珍しいバッハ編曲です。

大元の原曲は讃美歌とのことでバッハはこの曲をマタイ受難曲中の合唱コラールやオルガンコラールなど三度に渡り編曲をしています。

特に今回演奏するオルガンコラールはバッハの最高傑作に数えられる作品です。

独創的な和声に彩られており、特にコーダの展開には皆さん驚かれるのではないのでしょうか。

ナウモフのバッハ編曲は他にも色々ありますので、良ければ覗かれてみてください。

⑪ 城谷尚吾(30代)

紅夜(岡村直道)

もののけ姫(久石譲)

皆様、1年ぶりです。お元気でしょうか。30代の城谷尚吾です。

今も会社で仕事をしながら、自作曲やカバー曲のピアノ弾き語りをライブハウスでしています。

今回、またコンサートができることを大変嬉しく思います。

そして、森田さんを始めとした運営の皆様にお礼申し上げます。

せっかくですので昨年以降の近況を報告します。

1 仕事

やはり、新潟で安全規格という技術の仕事(文系出身なのに)をしています。
経験が必要な仕事のせいか私の部署には新入社員が入って来ず、私が一番若い
という、部署として不安になる状態が続いています。ちなみに近いうちに一人定
年で消えます。

このため役職はないですが、各部署との調整役なども行うようになりました。
個人的には実務に集中したいのですが…。

2 音楽

相変わらず本名を隠して、岡村尚道名義で演奏をしております。

今年の1番の出来事は10/18(金)に、お世話になっている長岡のライブハウスで
ディナーショーという名のワンマンライブを行ったことです。

長岡で料理の勉強を行なっている方がディナーを作ってくださり、その間私が
一人ピアノ弾き語りをする…という感じで、あっという間に2時間が過ぎまし
た。

現職の社員は私の活動に賛否両論のため、顔が分かりにくいポスターを作って
口コミで宣伝するなどこっそりとした準備になったのですが、それでもたくさ
んの方が来てくださり、とても嬉しかったのを覚えています。

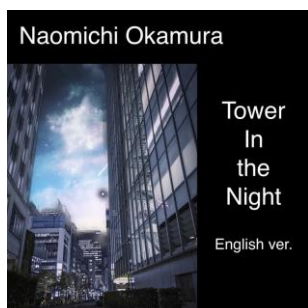
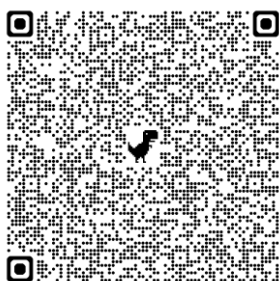
そしてこれを機に、今の状況：やりたいことを堂々とできない今の環境は果たし
てどうなのか、という思いが日に日に大きくなるのを感じました。

今後人生がどうなるか分かりませんが、この状況を打開するため行動しようと思
います。

あとは今年元旦に、昨年リリースしたアルバム'Let's Play DTM 2022'から Tower
in the Night という曲をシングルとしてリリースしました。その際、海外の方か
らのアクセスがそこそこあるので、せっかくなら英語で作詞をしようと思い、英
語版としてリリースしています。

以下 QR コードから音源先に飛べるので、よかったら聴いてみてください。

Apple music や Spotify、Amazon music でサブスクとして聴けます。もちろん音
源購入も可能です。母国語以外で作詞するのは本当にしんどかったので、聴いて
いただけたら大変嬉しいです。



←カバーはこんな感じです。

やはり前置きが長くなりましたが、本日演奏する曲の紹介に入ります。

2 曲演奏します。

1 紅夜

「こうや」と読みます。

2012 年に作詞作曲した曲で、2013 年頃にタワーレコードで販売しました。

この曲は比較的激しい曲調で、これまで静かな雰囲気の自作曲ばかりだったのが、これを機に激しめの曲を作るようになっていきました。

自分の中ではターニングポイントとなった曲です。

よく考えると Q 会コンサートで演奏したことがなかったので、今回機会をいただきます。

恐らく誰も歌詞を知らないと思うので貼り付けます。長文申し訳ありません。

赤い月の下で 昔の記憶が
壊れたテープレコーダみたいに 歪みながら戻ってくる
やり場のない 濁った心だ
何処かに押し流されて
泳ぐこともできずに 俺は抗うふりをする
浮足立った心の カーテンを開けても
見えない この出口は
何処へ還ろうか？
このまま此処へ沈んでゆくのか？
星すら見えない此処に妖しく輝く 紅い月
肉体(からだ)は時間について行くのに
心だけが 取り残されている
俺の体を持った何かは この流れに身を任せては

何処へ還るのか？

このまま此処で堕ちてゆく俺は

海の底で溺れる様な気持ちで空を見上げていた

紅い月が迫ってくる 大気を掻き分けて迫ってくる

押し付けられていたものが、望んだ途端に逃げて 逃げて行く

何処へ還るのか？

このまま此処で堕ちてゆく俺は

海の底で溺れる様な気持ちで空を見上げていた

何処へ還ろうか？

このまま此処へ沈んでゆくのか？

星すら見えない此処に妖しく輝く 紅い月

2 もののけ姫

私が歌を始めるきっかけとなった曲です。

まだ小学4年生の時、映画「もののけ姫」が公開されました。

お話も面白かったのですが、それ以上に主題歌について「男性が女性の声で歌っている」という点に衝撃を受けたのを覚えています。

そして自分もこんな声で歌ってみたいと思うようになり、中学から合唱部に入りました。

この曲は雰囲気あまりに特徴的であり一步間違うとネタ扱いされる曲なので、合唱部を卒業してからは滅多に歌いませんでした。

(一度だけ自分のライブで、せきまりさんに伴奏していただき歌ったことがあります)

しかし上記ディナーショーを行う時にライブハウスの店長から「せっかくだから、自分のルーツになった曲を演奏してみたら」とアドバイスされ、歌を始めたきっかけを忘れない意味でも、レパートリーに入れることにしました。

私個人としては今回、P 会関連のコンサートで初チャレンジとなります。

何か感じていただけたら幸いです。

来年以降も、同じ時代を生きている皆様とまたお会いできるのを楽しみにしています。

今後ともよろしくお願いいたします。

城谷尚吾(岡村尚道)

⑫ 佐藤みずほ(29代)

ダヴィッド同盟舞曲集 Op.6 より第1曲～第6曲(シューマン)

皆さまこんにちは。29代の佐藤みずほです。2011年3月に早稲田を卒業し、2回の転職を経て現在はIT系ベンチャー企業にて日英入り交じる環境で経理の仕事をしています。新卒の就活時にはITもベンチャーも完全に志望対象外でしたが、周りの人たちにも恵まれ、思いのほか自分にあった職場で楽しく働いています。仕事、家事、5歳と2歳のきょうだいの育児でバタバタな日々の中で、ピアノを弾く時間がとても大切な息抜き時間になっています。今日は久しぶりのOBOG演奏会の出演で緊張もありますが、またこの舞台に立てるという喜びでいっぱいです！

さて今回の曲目にある「ダヴィッド同盟」は、作曲家シューマンが音楽批評家として文章を出す際に名乗っていた架空の人物達からなる同盟です。各曲目の末尾にはダヴィッド同盟主要メンバーのフロレスタン (F.) かオイゼビウス (E.) (またはその両名)のイニシャルが記されています。各曲冒頭の指示は全てドイツ語で表記されています。

第一曲 4分の3拍子 G-dur Lebhaft(生き生きと) 【F. und E.】

第二曲 4分の3拍子 h-moll Innig* 【E. 】

第三曲 4分の3拍子 G-dur Mit humor(ユーモアを交えて) 【F. 】

第四曲 4分の3拍子 h-moll Undeduldig(性急な、短気な) 【F. 】

第五曲 4分の2拍子 D-dur Einfach(飾らずに、シンプルに) 【E. 】

第六曲 8分の6拍子 d-moll Sehr Rasch(極めて速く) 【F. 】

*Innig は一般的な日本語訳だと「親密な、心からの」、英語訳だと intimate で、シューマンが好き好んで使った言葉だそうです。個人的には、この曲に当てはめるなら「内に秘めた思い」といった意味合いが近い気がします。

ざっくり言うと、フロレスタンは情熱的・積極的で気性が荒く、オイゼビウスは内省的で控えめな人柄です。対照的な性格の二人に語らせることで、シューマンは自分自身の音楽観を表現することにしたようです。【シューマン著 吉田秀和訳 『音楽と音楽家』岩波文庫】に彼らの文章が掲載されているのですが、とても面白くてエッセイ感覚で読める本なのでまだ読んでいない方がいらっしゃっ

たらずぜひおすすめしたいです！（私はたまたま数年前に書店で見つけたのですが、P 会現役の頃にぜひとも出会いたかったです。）ベートーヴェンとシューベルト亡き後の時代への憂い、ショパン出現の衝撃、バッハへの敬意、リストに対する期待、一部の音楽家に対する不満等、その時代を生きるシューマン自身が感じたことがストレートに伝わってくる文章の数々。今では当たり前のように享受されている音楽が、作曲された当時は現在進行形で発展しており作曲家(音楽家)たちの間で相互に非常に強く影響しあっていたのだろうと想像します。

ロマン派全盛期のドイツで音楽に情熱を燃やしていたシューマンの気概が少しでも伝わるような演奏をできたらと思います。

⑬ 城野 郷司(初代) バラード第 3 番(ショパン)

僕以外はみんなお若いんですね、(笑)。

当時は東京大学にしかピアノの会がなく、早稲田にはショパンの会があったように記憶しています。なので、早大ピアノの会を作りました。一年目は 22 人から始まり、早稲田祭で、『小さなピアノリサイタル』をやりました。個人プレーなのでなかなか会の活動が難しかったのを覚えています。一年目は、築地にあった、ピアノアートサロンで定期的に集まり、食事会をやり、合宿と早稲田祭参加だけでしたが、私が卒業してしばらくしてふと気がつくと、会員も増え、いろんな大学にピアノの会ができていました。

今となっては、ピアノは生活の一部になっていますが、今年退職したので、少しずつ広げていけたらいいな—と思っているところです。

みなさん！よろしくお願いします。

⑭ 吉川潤(33 代) ワルツ第 5 番 Op.42(ショパン)

皆さん初めまして。知っている方はお久しぶりです。

33 代で幹事長をしていました、吉川潤と申します。

卒業後はレアキャラになってしまっていたのですが、すごく久しぶりに演奏会にチャレンジすることにしました。

簡単に自己紹介から。

大学院修士課程を卒業後、大阪の企業に就職し、5年ちょっと大阪に住んでいました。3年前、転職を期に関東へ帰ってきて、今は総合コンサルでシステム開発をやっています。

ピアノは4歳から24歳まで習っていたのですが、社会人になってからはMPが足りずめっきり弾かなくなっていました。そんな折、5歳になる娘が春からヤマハの幼児科に通い始めたため、パパも弾けるんだよアピールをするべく今回の演奏会にエントリーしました！

…が、平日は案の定MP不足で一切弾けず、毎日練習できていた学生時代がどれだけ恵まれていたかと痛感…。週末に申し訳程度の練習をして、何とか形になってきたところです。

今回選んだ曲ですが、ワルツなのに主題のメロディーラインが二拍子というちょっと珍しい曲です。作曲時期が1840年なので、ショパンがちょうど私と同じ32歳くらいのときの作品ということになります。前回のショパンコンクール優勝者であるブルース・リウが、2ndラウンドで弾いたOp.42が超素晴らしいので、ぜひYouTubeで聴いてみてください！（ちなみにピアノもファツィオリです）

彼のように、鍵盤の上で遊ぶような、軽やかで華やかな演奏にはほど遠いのですが、今後の人生で少しでも近づけられたらいいなと思っています。

最後になりますが、企画・運営いただいている森田さん、皆さん、貴重な機会をありがとうございました。

⑮ 重松和人(32代)

ノクターン 第18番 Op.62-2(ショパン)

譜読みが間に合わなかったり直前に僕のホルモンバランスが崩れたりしたらドビュッシーのアラベスク第1番を弾きます！

⑩ 穴井泰成(39代)
ピアノソナタ第3番1楽章(ベートーヴェン)

こんにちは はじめまして

39代の穴井と申します。

私の最寄り駅の本屋さん前にはアップライトピアノが置いてあり、自由に弾くことができます。私は本屋に行くたびに弾いているのですが、街の人々は立ち止まってあんまり聴いてくれず、少し寂しいです。結構響くので、もちろん距離の離れたところで聴いてくれている人はいると思うのですが、ノリに乗っている演奏が終わった後、後ろ側の光景を反射する黒いアップライトピアノに誰もいないのを見ると、寂しさを感じます。そんな時に演奏会のお知らせを見て、参加させていただいた次第です。明るいベートーヴェンの曲をできたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いします。

⑪ 先田茜音(42代)
月の光(ドビュッシー)

はじめまして。42代OGの先田茜音（さきだあかね）と申します。大学は学習院の心理学科の出身で、今年の春大学を卒業しました。一応愛子さまと同期です（大学構内でよく見かけてました）。

卒業後は外部の大学院に進学しました。医学系と近い分野なので一応"理転"になるのでしょうか。現在、絶賛進路選択悩み中です。人生の先輩方のご助言をお待ちしてます…！

今回はドビュッシーの『月の光』を演奏します。今までショパンばかり弾いてきたので、色々な作曲家の曲を弾いてやろうという感じで選びました。オススメの作曲家がいたら布教お待ちしております。

特別難しいというわけではないけれど、綺麗に弾くのは意外とテクニックが必要な曲で、ヒイヒイ言いながら練習してます。

「まあ失敗したらしたでみんなに勇気が与えられるよな」ぐらいのマインドで、

気負い過ぎずに楽しんで演奏したいなあと思います。よろしくお願いします。

⑱ 那須篤(34代)

ノクターン 第13番(ショパン)

みなさんこんにちは！34代副幹事長的那須と申します。

久しぶりに演奏会に出たい！と思って軽い気持ちでエントリーしたらまさかの
大トリ前で戦慄しております()

今日はショパンのノクターンから第13番を演奏します。

どうぞよろしくお願いいたします！

引退演奏会でも弾いた曲で思い出がある一曲です。

⑲ 片山隆(30代)

⑲ピアノソナタ第3番 短調 Op.58(ショパン)

こんにちは、早大ピアノの会では第30代幹事長をやっておりました、片山隆と申します。現在は、東京都国立市でとあるイカれたバーの店長をやっております。普段は夜型生活なので、果たして今日ちゃんと起きられるか不安でたまりませんが、まあ何とかかなるでしょう。

今日弾かせていただく曲は、ショパンが作曲した3つのピアノソナタの中では最後に作曲された第3番です。ワルシャワ音楽院時代の習作である1番はひとまず除いて(これも面白くいい曲です)、独創的で自由な形で作られた2番、比べて古典的な形式に沿って作られた3番と両者よく比較され、芸術性も人気も甲乙付け難いといったところではないでしょうか。私はどちらかというと3番の方が好きなのと、ようやくこの曲を作曲したショパンの年齢に私が追いついたので、今回はこちらを弾かせていただきます。

少しばかり曲の解説をさせていただきますと、この曲は1844年、ショパンが34歳の時、ノアンにあるジョルジュ・サンドの住居で作曲されました。彼女との10年にわたる恋人関係の中では後期にあたり、彼女の連れ子との問題、父親を亡くした年でもあり、また彼自身の健康状態も悪化した頃でもあります。そんな作曲者の状況が曲に表れているのか、古典的ながらも目まぐるしい転調、展開を見せたり、夢想するようなもやがかかったような箇所が多かったり、どこか不安定で輪郭が不明瞭なところもあるように思えます。そんなつかみどころのな

さが、音楽理論も何も知らなかった少年時代の私には受け入れ難く、当時あまり好きな曲ではありませんでした(もっとハッキリ分かりやすいものが好きでした)。ですが、この曲を深く知れば知るほど、ショパンの天才的な作曲技法やアイデア、旋律の美しさ、力強い熱情を感じさせられ、今では愛する一曲になりました。もはや解説というよりは、この曲への愛を語る文になりそうですが、簡単に全四各楽章ずつ触れていこうと思います。

◆第一楽章

力強い第一主題に始まり、序盤からどう收拾つけるのかわからないような激しい展開を見せ、天才的な着地点から甘美な第二主題へと続いていきます。そして、展開部はポリフォニックにパリッと始まったと思いきや、当時の感覚からすると無調スレスレとも思えるド緊張な展開から、再びどこか夢うつつな第二主題を用いた展開に。そして彷徨うようなフガートから唐突に再現部へと繋がり(バラード第4番やノクターン17番などにも似たような部分を感じます)、長い割にはあっさりとしたコーダで締めくくります。転調も展開も目まぐるしく、一見強引にも感じられる繋ぎが巧妙に自然に聞かせる、ショパンの技法とバランス感覚の良さを私は感じます。その目まぐるしさ、緊張と甘美さの対比が、どこか現実と夢を行き来しているように私には感じられます。

◆第二楽章

ショパンの4つのスケルツォが持つ規模が大きくシリアスな性格とは正反対に、短く軽快で即興的なニュアンスで書かれたスケルツォと、緩やかなトリオで構成されています。変ホ長調で、第一楽章からエンハーモニック的にスケルツォが始まり、そこからさらにエンハーモニックにトリオへと繋がり、調性で遊びつつも全体の調への統一感をしっかり持たせるように作られています。短い楽章ながら、巧妙に作られた楽章だと私は思います。

◆第三楽章

第二楽章からまたエンハーモニックに、シンコペーションを生かした序奏で始まり、ノクターン風で甘美な旋律が奏でられます。長い楽章で、大きな展開は

特になく進んでいくのですが、右手でずっと奏でられる分散和音が回想なのか、夢想なのか、その中を漂っているように私には感じられます。時折り立ち止まったり、左手のリズムで変化をつけたりと、時々ふっと目覚めさせてくるのですが、それもまたまどろみから深い眠りへとつくように終わっていきます。うたた寝してるときに、時々ビクッと目覚めて、でも結局は眠気に勝てなくて本寝しちゃう感じに似てますね。

◆第四楽章

ふわふわとした第三楽章とはうって変わって、緊張感と煌びやかさが対比になって、力強さとショパンのピアノスティックな華やかさが前面に出た楽章になっています。同じ旋律を繰り返すたびに、左手の伴奏の刻みが細かく速くなっていき、それが非常に効果的で曲のボルテージを上げていきます。技術的にも非常に難しく、果たして本番までに練習が間に合うか大変不安ですが、それぞれ性格の違う先の三楽章をまとめ上げる非常に大事な楽章です。ショパンの気合いをととても感じますし、私も大好きで学生時代に何度かステージで弾いたことのある楽章でもあるので、全力で熱を込めて弾ければいいなと思っております。

長々と語ってしまいましたが、曲も長いです。演奏に飽きた時、退屈しのぎの読み物にしていただければ幸いです。拙い演奏ではございますが、この曲への愛がどうかみなさまに伝わりますように、そしてすべての飲み屋の繁盛、繁栄を願って弾かせていただきます。

冊子印刷の都合でページが空きましたので、森田から映画情報をお届けします。

11月1日、『十一人の賊軍』が公開されました。ピアノの会 27 代幹事長の高橋大典さん（たかはしだいすけ：通称ダイテン）がプロデューサーです。

ダイテンさんは僕が 1 年生のときの 3 年生で、僕らの代を新歓したときの幹事長でした。どういうわけか、29 代は全体的に顔のつくりや体型が若い人が多く、逆に 27 代は少し大人びた風貌の人が多くて、入会した当時は「この人たちちょっと怖いな、ほんとにこの人たちピアノ弾くのか？」と思っていたら、そういう人たちは飲み会とか麻雀要員で、やっぱりほとんど弾きませんでした笑。

このころ、たしかピアノの会は早稲田祭でのコンサートみたいなのをやってなくて、それをやろうと音頭をとったのがダイテンさんだったと思います。僕はピアノ目当てで学生会館に入り浸るクチの会員だったのですが、ダイテンさんは飲み会畑・イベント畑な人で僕とは頻繁に顔を合わせる感じではありませんでした（僕は同じ 27 代でも喜市さんとのほうがよっぽど仲いいです）。しかし、この早稲田祭のときはなぜか僕がダイテンさんの下についていろいろと準備をした記憶があります。バイトを紹介してもらったりもして、僕の気づかぬところでいろいろと采配してくれていたのだろーと思います。おそらくそのような世話焼きを他の人達にもいろいろやってくれていたのだろーよね、29 代はピアノをしっかり弾きたい派（ストア派）と騒ぎたい派（エピクロス派）のどちらかが淘汰されるということなく、どちらも残っているというような状態でした。

そして僕らのひとつ下の 30 代はやたらとノリが良くてやたらと人数が多いという感じで、組織運営を更新する必要が出てきたりもしました。ただ、ありがたいことに僕ら 29 代にはスト・エピ双方に通ずる人財 N がいて幹事長になってくれたので、色々なことにチャレンジできたと思います。予算や幹部を決定するような総会は僕ら以前にはありませんでしたし、そもそも会則もありませんでした。

そしておそらくダイテンさんが熱心に当該人財 N を引き入れてくれたんですね。この人財 N がいなければ 30 代のメンバーも随分違ったし、組織づくりはできなかったでしょう。僕もくだらんサークル生活で終わって、OB 演奏会なんてしようとも思わなかったでしょう。というわけで、こんにちの P 会の姿、そして今日ここで皆さんとお会ってきたのはダイテンさんがいたおかげなのです。

つまり、ピアノの会は全員、毎日 3 回、この映画を映画館で見るべきなんです。すごくいい映画で、僕も見えないのに本当にすっごく感動しちゃいました。だから見なくていいんですよ。

（文責：長井淳）

第1部 (13:00~14:10)

- ①森田亮介(29代) 美しき音楽-Die schöne Musi-(グルダ)
- ②谷口雄大(29代) 幻想曲第3番 阿蘇観音 op.60(芝祐久)
トッカータ(イウエイゼン)
- ③加納弘基(28代) 幻想即興曲(ショパン)
- ④嶋田千恵(23代) 愛のうた(ストロベリー・フラワー)
声(森山直太郎)
フタイロノツバサ(新田のん)
- ⑤岡安彩香(37代)&石神綾子(38代)
映画「サウンド・オブ・ミュージック」より
「ドレミの歌 (Do-Re-Mi)」(RODGERS RICHARD)
- ⑥日高裕一朗(36代) ソナチネ(ラヴェル)
- ⑦天海才(30代) 伝説第2曲「波を渡るパオラの聖フランチェスコ」(F.リスト)

第2部 (14:30~15:35)

- ⑧森原百合(24代) 『山曲』より 第4曲「山泉」(崔世光)
- ⑨加藤喜市(27代) ソナタ形式の組曲 Op.60 より 第1曲
「ソナチネ」(ジョセフ・ジョンゲン)
- ⑩荒井幸司(21代) コーラル前奏曲「最愛のイエス、我ら集いて」 BWV731 (ハッハ=コーエン)
「人よ、汝の罪の大きさを嘆け」 BWV622 (ハッハ=ナウモフ)
- ⑪城谷尚吾(30代) 紅夜 (岡村直道)
もののけ姫 (久石譲)
- ⑫佐藤みずほ(29代) ダヴィッド同盟舞曲集 Op.6 より第1曲~第6曲(シューマン)
- ⑬城野郷司(初代) バラード第3番(ショパン)

第3部 (15:55~16:55)

- ⑭吉川潤(33代) ワルツ第5番 Op.42(ショパン)
- ⑮重松和人(32代) ノクターン 第18番 Op.62-2(ショパン)
- ⑯穴井泰成(39代) ピアノソナタ第3番 1楽章(ベートーヴェン)
- ⑰先田茜音(42代) 月の光(ドビュッシー)
- ⑱那須篤(34代) ノクターン 第13番(ショパン)
- ⑲片山隆(30代) ピアノソナタ第3番 ロ短調 Op.58(ショパン)